

| 第5回 鎌倉市学校整備計画検討協議会 議事録 | |
|------------------------|--|
| 日 時 | 令和5年(2023年)6月7日(水)9時30分から10時40分 |
| 場 所 | 鎌倉市役所第3分庁舎講堂 |
| 出席委員 | 黒木委員、佐藤委員、實方委員、高橋委員、梨本委員、河合委員、掛札委員、渡辺委員 |
| 欠席委員 | 倉斗委員 |
| 出席した職員の職氏名 | 小林教育文化財部長、鈴木教育文化財部次長兼学校施設課長、萩原学校施設課施設担当担当係長、川村学校施設課施設担当 |
| 内 容 | (1) 学校整備計画の項目について (2) 緊急を要する学校施設について (3) 今後のスケジュールについて |
| そ の 他 | |

| | |
|---------------------|---|
| 事 務 局 (鈴木次長) | (開会に当たり、協議会委員9名中8名の出席により、過半数である定足数に達していること、欠席委員から事前に連絡をいただいていること、中学校長会の推薦を受け中尾委員に代わり令和5年度は第二中学校長の掛札委員に委嘱していることを報告) |
| 高 橋 会 長 | 第5回鎌倉市学校整備計画検討協議会を開会します。 |
| 内容(1) 学校整備計画の項目について | |
| 高 橋 会 長 | 事務局から説明をお願いします。 |
| 事 務 局 (萩原係長) | <p>「(1) 学校整備計画の項目について」の説明に先立ち、まずはお手元の「児童・生徒の通学時間」と記載した資料をご覧ください。</p> <p>この資料は、前回第4回の協議会における黒木委員からの、通学時間や通学距離についての質問に関する資料となります。</p> <p>通学時間や通学距離については、教育委員会内で、詳細な資料を持ち合わせていないため、各学校に聞き取りを行った結果を表にまとめています。</p> <p>まず、徒歩で最も遠くから通学する小学校の児童は、第二小学校の60分で、具体的には「鎌倉逗子ハイランド」と言われている住宅地で、住居表示では浄明寺六丁目付近からの通学となり、実際の経路としては約2.4キロメートルになります。中学校については、第二中学校、腰越中学校、岩瀬中学校がそれぞれ50分で、具体的には第二中学校が、第二小学校と同じ浄明寺六丁目付近と十二所の切通し手前付近となっており、距離にして約2.6キロメートルです。また、腰越中学校は、稲村ガ崎五丁目付近で、距離にして約3.3キロメートル、岩瀬中学校は、今泉台七丁目からの通学で、距離にして約2.7キロメートルという結果でした。</p> <p>続いて、公共交通機関の利用については、多くの学校が利用者なしとの状況となっていますが、小学校で、複数の利用者があるのは、第二小学校</p> |

で 35 名、稲村ヶ崎小学校で 45 名、西鎌倉小学校で 22 名の利用となっています。

第二小学校の利用で、最も遠いバス停は、「十二所神社」となっており、このバス停利用者の通学時間は 50 分で、距離にすると約 2.6 キロメートルです。稲村ヶ崎小学校は、江ノ電「稲村ヶ崎駅」の利用で、通学時間は 40 分、距離にすると約 2.0 キロメートルです。西鎌倉小学校は、バス停「若松」の利用で通学時間は 30 分、距離にすると約 2.1 キロメートルです。

また、中学校の公共交通機関利用者については、第二中学校は 7 名で、御成中学校は 110 名となっています。御成中学校では、稲村ヶ崎小学校に徒歩で通学していた児童も、中学校に進学すると、江ノ電「極楽寺駅」を利用しての通学になるなどの理由から、公共交通機関利用者が多くなっています。

公共交通機関の利用者のうち、最も遠くから通学する生徒は、第二中学校が第二小学校と同じバス停「十二所神社」の利用で、通学時間は 50 分、距離にすると約 2.6 キロメートルです。御成中学校では、江ノ電「稲村ヶ崎駅」の利用で 35 分、距離にすると約 3.8 キロメートルです。

いずれも、前回検討協議会でお示した、学校の適正配置、通学条件に関する、「通学距離による考え方」のおおよその目安として妥当とされている、小学校で 4 キロメートル以内、中学校で 6 キロメートル以内であり、「通学時間による考え方」の一応の目安とされている、おおむね 1 時間以内の範囲に入っています。

以上が前回質問のあった事項についての調査結果となります。

引き続き、資料 1「学校整備計画の項目について」について説明します。

学校整備計画の策定に向けて、これまで本協議会において多くの意見を頂くとともに、様々な議論をしてきましたが、次回以降は、これまで頂いた意見や議論の内容を踏まえ、学校整備計画の骨子を示していきたいと考えています。

鎌倉市教育委員会では、「新しい時代を生きる児童・生徒の豊かな学びにつながる教育活動の推進」のため、鎌倉市学校教育指導の重点として教育指導の四つの視点を定めていることから、その実現に向けた学校整備計画となるよう、骨子について取りまとめを行っていく予定です。

資料 1 の表面では、鎌倉市教育委員会で定めております教育指導の四つの視点や、これまで本協議会でいただいた意見のまとめを、裏面では、今後整理していきたい項目を記載しておりますので、順番に説明します。

はじめに、「1 教育指導の四つの視点」では、(1) から (4) として、鎌倉市学校教育指導の重点において定めている教育指導の四つの視点を示しています。

一つ目が、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善。

二つ目が、個に応じた支援教育の充実。
三つ目が、安心・安全な学校教育環境の実現。
四つ目が、人権意識の向上と豊かな心の醸成。

以上が鎌倉市の教育指導にかかる四つの視点であり、この視点に沿った学校整備計画となるよう、取りまとめを行っていくこととなります。

続いて「2 学校施設の目指すべき姿」について説明します。令和3年3月に策定した「鎌倉市学校施設長寿命化計画」では、学校施設の現状や実態を明示するとともに目的や計画期間等を記載しており、また、「学校施設の目指すべき姿」として、安全性や快適性、学習活動への適応性、環境への適応性及び地域の拠点化を項目としてあげています。

その項目ごとに、昨年度の協議会で各委員から頂いた意見を整理したので、振り返りも含めて概要を説明します。

「ア 安全性」については、不審者対策や津波対策や災害が生じた際の施設づくりなど災害・防犯に関する意見を頂きました。

「イ 快適性」については、図書館で働く方の環境づくりや学習環境づくり、教室の机等を含めた面積規模等に関する意見を頂きました。

「ウ 学習活動への適応性」については、学校図書館の資料室の充実や児童生徒の支援に関する観点の意見を頂きました。

「エ 環境への適応性」については、災害対策と併せて環境に配慮した設備の設置等に関する意見を頂きました。

「オ 地域の拠点化」については、コミュニティスクールや乳幼児の図書館利用、多世代交流など地域に開かれた学校施設にするという意見や地域性を考慮することや拠点校、統廃合の考え方についてどう考えていくかといった意見を頂きました。

また、「(2) その他の意見」としまして、通学時間や地域による学級数の規模の違いなど適正規模・適正配置の考え方や改修方法として長寿命化を選択していくか検討が必要といった意見を頂いています。さらに、どういった学校を作りたいか、キャッチフレーズやコンセプトがあると良いといった意見を頂いています。

以上が、これまでの協議会の中で頂いた意見となります。

次回の協議会では、最初に説明した教育指導の四つの視点や、協議会でいただいた意見を基に、学校整備計画の骨子を示していきたいと考えており、それに当たって整理していく主な項目が、「3 項目として整理する事項」になります。

「(1) 学校施設の標準仕様」としては、災害対策や防犯対策、また、児童生徒や教職員に配慮した快適な環境づくりに向けて、諸室の仕様や配置、施設規模等の方針について。

| | |
|---------------|--|
| | <p>「(2) 改修の方法」としては、施設の老朽化状況や津波浸水想定区域に含まれる学校、児童生徒数の推移、財政的な観点等を考慮しながら、改築もしくは長寿命化など改修方法の方針や優先順位の方針について。</p> <p>「(3) 地域の拠点化」としては、コミュニティスクールや図書館の利用、地域性などを考慮しながら地域に開かれた学校とするための環境づくりの方針について。</p> <p>「(4) 適正規模・適正配置」としては、地域ごとの学級数の違いや通学に要する時間や距離を考慮しながら適正規模・適正配置や統廃合の方針について。</p> <p>以上、4点の項目については、次回の協議会で市の考えを示していきたいと考えておりますが、その検討に当たり、本日は委員の皆様の意見を伺えればと思います。</p> <p>以上で説明を終わります。</p> |
| 高橋会長 | ただいまの説明について、質問や意見はありますか。 |
| 渡辺副会長 | 資料1の2(1)についてですが、令和3年度に策定した鎌倉市学校施設長寿命化計画には、個々の学校についてどのようにしていくかといった記載があるのですか。次ページの「3 項目として整理すべき事項」の(2)には「長寿命化や優先順位の方針」という記載があるので、鎌倉市学校施設長寿命化計画の中で既に記載されているのなら、資料として出していただくことをお願いしたい。 |
| 事務局 (鈴木次長) | 鎌倉市学校施設長寿命化計画には、各校の劣化度や健全度などについての調査結果は記載しているのですが、それらを総合的に判断してどのように優先順位をつけるのか、どのような整備手法とするのか、といったことを具体的に示していないので、そういう視点も含めて、今回の学校整備計画の中で示していくこととなります。ただし、ハード的なことだけに特化した計画ということではいけないので、冒頭お伝えしたとおり、本市の教育指導の重点として定めている四つの視点において判断していくことについても、併せて検討を行っていくことにしています。 |
| 高橋会長 | 私の理解では、国の方針として、基本的には建替えよりも長寿命化改修をしていこうという方向にあると思っています。そのような中、鎌倉市内での順番の決め方については、まず、方針を決めなくてはならず、この場では、その議論を深めていくことで、その後、具体的に順番を決めていくことになるのですが、この後の議題にもあるとおり、社会情勢の変化もあるので、それに応じて臨機応変に限られた財源を使って進めていくことになると思います。いずれにしても、計画的に進めていかないと、1年に1校ずつ改修しても20数年になるので、大変なことだと思っています。 |
| 實方委員 | 説明はとてもわかりやすくしていただいているのですが、自分の子どもが通っている学校のことしかわからないので、実際の学校がどうなのか、 |

| | |
|-----------------------|---|
| | <p>学校がどう考えているのか、学校でどのようなことに取り組んでいるのか、ということについて知りたいと思います。現地を見に行くという予定はあるのでしょうか。</p> |
| <p>事務局 (鈴木次長)</p> | <p>事務局としては、会議の予定を組んでいる中で、現地視察の予定はしていませんでしたが、ご意見もありましたので、例えば、事務局が検討を進めるにあたって、視察をしていただくことがよいと思われるような学校をピックアップして日程を組むなどの対応は可能かと考えます。</p> |
| <p>佐藤委員</p> | <p>改修工事は、配付されている資料に記載のように、学校ごとに何年度に行うという形で進めていくことになると思うのですが、学校全体ではなく、例えば屋外トイレといったピンポイントでも見てほしいと思っています。富士塚小学校の屋外トイレは本当に汚くて、子どもたちは怖くて入れない状況です。天井にヤモリがいたり、壁に蛾がとまっていたりして、窓がなく雨ざらしということもあり、子どもたちが入りたいという環境ではないと思います。西鎌倉小学校の友達から、トイレがきれいに改修されたということを知り、すごく羨ましいと思ったので、子どもたちが過ごしやすい環境づくりを早急に対応していただけたらありがたいと思います。</p> |
| <p>事務局 (鈴木次長)</p> | <p>今のご意見は、計画的に行う大きな改修とは別に、日常利用している中での話だと思います。まさにそのあたりは学校施設課で日々対応している部分であり、必要な修繕などは随時行っており、計画的な改修も行っているところですが、しかし、十分に対応しきれていない部分もあると思います。各学校からの声もさまざま届いていますので、順次の対応とはなりますが、しっかり対応させていただきます。</p> |
| <p>高橋会長</p> | <p>資料1の「1 教育指導の四つの視点 (3)」の安心・安全な学校教育環境の実現ということで、今はトイレの話がありましたが、それ以外にも学校全体で安全や安心の確保というのは、ベーシックの部分で非常に重要で、このところ話題となっていることもあり、学校施設は管理職はじめ皆さんで総点検とか数値が出ていたりして大変なところだと思いますので、そういうところと連携しながら、改修も考えられていくのかなと思っています。</p> |
| <p>梨本委員</p> | <p>安全安心と言われており、安全はとても大切なのですが、安心の部分プラスわくわく感みたいな何かそういったものもあるとよいと思います。「2 学校施設の目指すべき姿 (1) エ環境への適応性」には、SDGsがあって避難生活など基本的なことがあります。さらに、例えば自然環境を大切に、ビオトープなどそういったものの整備とか、自然を活かしたわくわく感のある、子どもたちが学びたくなるような環境づくりも必要ではないか、と思っています。</p> <p>「1 教育指導の四つの視点」の(3)では、人権意識の向上が、どのように体现されているのか気になっています。実際不登校の子どもなどを想</p> |

| | |
|---------------|--|
| | <p>定した対策もあると思いますが、インクルーシブ的な視点が必要になってくると思うので、特別支援教育的な配慮をするような仕組づくりが校舎としても体现できているかといったところと、各階のつながりというところで、何か校舎に反映されるフリースペースであるとか、様々な学びの場であるとか、バリアフリーとしてエレベーターをつけるとかということが基本的に必要ではないかと思っており、期待感も込めてお話をしております。</p> <p>見学については、大船中学校のようなハイテクというか素敵な施設もありますけれども、自然環境に恵まれた場所、今泉小学校のような小規模の学校など、大きいところ小さいところ先進的なところ、そのほか、ICT環境の充実みたいな事例も見てみたいと思っております。</p> |
| 高橋会長 | <p>この四つの視点というのは、私の方から、付け加えてほしいと申し上げたものです。これまで委員の皆様から、身近な具体的なところからたくさん意見をいただいております、それはすごく重要なのですが、一方で、目指すべき姿とかポリシーというものが示された上で、具体的に施設をどうしていくのか、ポリシーと身近なところの両方挙げていって案を作っていくことが望ましいのではいか、ということで入れていただきました。したがって、今まで人権意識の向上などの点については議論が不足していたというご指摘だと思います。こういうことが加わることで、より多様な視点で議論できるのではないかと感じています。</p> |
| 事務局 (鈴木次長) | <p>インクルーシブの話しや不登校特例校の話しなど、学校のあり方についてもあわせて議論が必要かと思いますが、段階があると思っております、今回学校整備計画を立てる段階、それを実現させる設計なり具体化していく段階、ソフト的な対応の段階というように、いくつかあると思いますが、今回の計画づくりの中で、視点としては入れながら検討していきたいと考えております。</p> |
| 河合委員 | <p>教育指導の四つの視点に沿って考えていくことは、とても重要なことだと思っております。しかし、現状は部屋が不足しており、個々に応じた支援教育についても、会議室を使用しているときに、健康診断が入ると個別指導はどうしよう、といったところが現状です。更衣室についても確保が難しく、ここ数年使っていなかったランチルームでの更衣を何年生男子、何年生女子というふうに行っている状況です。そういう点についても、改修の際にはいろいろと工夫をできるとよいのではないかと思います。</p> |
| 掛札委員 | <p>スペースの関係では、例えば鎌倉市の公立小中学校では、現在、フリースペースを作ってくださいということになっており、子どもたちの居場所の確保の一つということなので賛成ではあるのですが、学校に持ち帰ると、どうしようかとなります。会議室にはパーテーションはあるが、そこにいる子どもにとってはあまり話を聞かれないだろうし、そもそも会議室</p> |

| | |
|---------------|--|
| | <p>はコミュニティスクールで地域の方々がたびたび使用することにしているの で、適当な教室はないというのが現状です。</p> <p>もう一つ全然違う方向からの話しになりますが、例えば雨漏りしたとき などは、学校施設課の方々には、すぐに対応していただいています。一般 市民からすると、雨漏りしていたら勉強ができないので、当然でしょう、 となるのですが、雨漏りと言っても、鉄筋コンクリートの建物は、一度塞 いでも別のところから出てくるということがあり、対応は大変です。</p> <p>やはり喫緊に対応していかなければいけないところと、最初に記載され ている、教育指導の四つの視点がもともになるっていうところを共有して いただくことで、子どもたちの安心安全の部分ってというのは、鎌倉市には非 常に尽力していただいているというのが感じているところです。</p> <p>今回のフリースペースのように、アップデートされていく教育課題に関 する現場の対応のところと、この協議会において、いわゆる優先順位をど のようにしていくのかが絞り込まれてくると、一学校長としても学校運営 がしやすくなるのかなというふうに感じています。</p> |
| 高橋会長 | <p>自己紹介の時間をとらなかったもので、それも含めていろいろお話しをい ただきありがとうございました。ほかにありますか。</p> |
| 渡辺副会長 | <p>学校整備計画の位置付けについて確認させていただきたいです。</p> <p>第1回協議会で配布された資料5には、この学校整備計画の目的として、 鎌倉市公共施設再編計画を前提にしつつ、との記載があります。公共施設 再編計画には、具体的にどこをどうするということまでの記載はないです が、学校の統廃合あるいは拠点校という考え方が示されています。私は、 公共施設再編計画に基づきフォローアップしていくものとして学校整備計 画があるのだろうと思っています。先の議論になってしまい申し訳ありま せんが、統廃合とか、拠点校とかを軽々に文書化できないということは重々 承知していますが、その一方で、公共施設再編計画に記載されている項目 については、教育委員会で主体的に解決していかなければいけないこと であって、学校整備計画が40年を計画期間としている中で、触れないでい けるのでしょうか。今後の議論でも出てくるでしょうが、市の計画相互にお いて、齟齬がないようにしていただきたいと思っています。</p> |
| 事務局 (鈴木次長) | <p>ご指摘いただいた公共施設の再編については、市として取り組まなけれ ばいけないということで計画を作っているものです。その中に記載されて いる学校施設が、市の公共施設全体の約4割を占めており、何かしらの整 理をしなければいけないということで、公共施設再編計画の中で謳われて いるものです。これは、鎌倉市に限らず全国的な傾向として学校施設が占 める割合が大きいということで、統廃合も含めてという記載となっている のですけれども、その前提として、人口推計から児童生徒数が減少してい く中で空き教室も増えるであろうというところを捉えての計画であったり</p> |

| | |
|-----------------------------|--|
| | <p>するところもあって、その状況が、今、例えば児童生徒数が予想よりも減っていなかったりとか、あるいは、少人数学級で空き教室ができにくい状況というところがあります。再編計画の改定も、現在行っていますので、現状を踏まえて、相互に調整しながら進めていくことになると思いますけれども、その視点は外せないと思っていますので、その視点も含めながら、次回は、もう少し整理したものでお示しできればと思っています。</p> |
| 渡辺副会長 | <p>重要なことは、計画を作ることが目的ではなく、作った計画を活かしていくということが必要と考えます。40年を想定した計画を作って固定ということではなく、当然に状況の変化というものはあるということを前提にして、計画は作るけれども、実際に計画を回していくときは、柔軟に運用するという考え方を文章で示していただきたいと思っています。</p> |
| 事務局 (鈴木次長) | <p>計画を作って終わりということは考えていませんし、公共施設再編計画の中でも計画の硬直化を招かないようにという表現をあえて入れている部分もあります。学校整備計画についても、例えば、これから先に、児童生徒数が大幅に減少するような状況が出てくるとか、適正規模適正配置という視点で捉えたとしても、そのまま学校を残し続けることがどうなのだろうという議論が出るような場面が生じれば、当然そこでの見直しというものも必要になると思いますので、今回作った計画が、今後変更することなくということではなく、柔軟なものというのを取り入れていきたいと考えております。</p> |
| 高橋会長 | <p>ただ今のご意見は、計画の実施の道筋みたいなことを明快にした方がよいということでした。明快にできない場合は、できなそうな変更の観点のようなものを示しておくということかなと思います。つまり、今後、人口減は予想されていますけど、一方で高齢化も進んでいて、一般論でいえば子どもが減っていくわけですが、鎌倉という条件から考えたら、増えていくかも知れないというように、計画を立てたところで、この先どうなるかわからないことで、このようなことが修正の予測としてあるというふうに記載しておけば、比較的計画の実施ということが記載しやすいと思います。私は、他の地域でも議論していますが、予測も難しければ意見の集約も不可能に近いと認識しています。ただ、早めに方針を示していくことや、議論をして決めていくということも重要な要素だと感じています。</p> |
| 事務局 (鈴木次長) | <p>本日、資料として示した内容が、あまり具体性が出せていないところもありますので、実質的に議論いただくのは、次回、もう少し詳細な資料を示す中で、ご意見をいただければと考えております。</p> |
| 高橋会長 | <p>改めて、今日の意見を踏まえて、事務局で整理していただきたいと思います。</p> |
| <p>内容(2) 緊急を要する学校施設について</p> | |

| | |
|---------------|---|
| 高橋会長 | <p>それでは、「(2) 緊急を要する学校施設について」の説明を事務局からお願いします。</p> |
| 事務局 (萩原係長) | <p>内容の2、「緊急を要する学校施設について」の説明をします。</p> <p>資料は、資料2「緊急を要する学校施設について」になります。</p> <p>資料2は、現在の学校施設の校舎面積、屋内運動場、屋外運動場の面積の状況や築年数、老朽化状況から整理したのになります。</p> <p>始めに「1 校舎、屋内運動場、屋外運動場の面積等」では、小学校及び中学校の児童生徒数や校舎・屋内運動場・屋外運動場、児童一人当たりの校舎面積を表にしています。校舎面積と屋内運動場面積、屋外運動場面積の欄の括弧内の数字は法令等に基づく必要面積になり、黄色で着色された所は必要面積を満たしていない学校になります。</p> <p>こちらの表で見ますと、小中学校25校中22校でいずれかの面積を満たしておらず、特に小坂小学校及び山崎小学校では校舎・屋内運動場・屋外運動場の全ての項目で必要面積を満たしていない状態であることが分かります。</p> <p>また、校舎面積と児童生徒数から一人当たりの校舎面積を計算し比較すると、小学校では7.48平方メートルから30.62平方メートル、中学校では11.53平方メートルから21.91平方メートルと大きく差が生じており、小学校では山崎小学校、中学校では玉縄中学校が、特に校舎に余裕がない状況がみられます。</p> <p>資料は裏面にまいりまして、「2 市立小中学校の築年数について」の説明をいたします。</p> <p>市立小中学校は、平成になってから建替えられた御成小学校、第二中学校、大船中学校を除きまして、いずれも主要校舎の築年数が30年を超えており、特に50年以上経過している学校は、小学校では第一、第二、腰越、深沢、玉縄、山崎、今泉小学校の7校、中学校では御成、深沢中学校の2校という状況です。</p> <p>また、「3 学校施設の老朽化状況」では、平成29年度から30年度にかけて実施した施設の老朽化状況において、AからDの4段階で評価を行い、早急に対応する必要があるD評価に該当した項目があった学校は、小学校では第一、腰越、深沢、山崎、今泉、七里ガ浜小学校、中学校では御成、腰越、玉縄、手広中学校が該当しています。</p> <p>続いて「4 緊急を要する学校施設について」では、これまでの1から3の状況を基に緊急を要する学校施設の考え方などを整理しております。校舎等の面積や築年数、老朽化状況から考えると、山崎小学校では特にスペースに余裕がなく、地域の周辺の状況から学区の変更などによる対応も困難な状況です。また、スペースの状況から、現在、市立小中学校全校に設置を目指している特別支援学級教室について、令和6年4月に開設を予定</p> |

| | |
|---------------|---|
| | <p>している稲村ヶ崎小学校を除くと山崎小学校のみ未設置という状況や不登校児童生徒対策としての校内フリースペースの整備などができない等の課題があり、これらの課題を解消する手法として長寿命化改修による手法の検討だけでは課題の解消が困難と考えられます。</p> <p>今後、学校整備計画の中で学校施設を整備する優先順位付けを行っていきたいと考えておりますが、現時点で最も教育活動上の支障が大きい山崎小学校については、緊急を要する学校施設として優先的に何らかの対応をしていくことが求められていると考えています。</p> <p>現在、学区内に学校施設整備を可能とする一定規模以上の土地が更地の状態であり、狭小かつ高低差のある山崎小学校の持つ課題の解決が図れる可能性のある希少な土地であることから、土地の取得による移転を含めた対応について、学校整備計画の策定を待たずに先行して取り組んでいくことも必要と考えますが、本日はこちらの点についてご意見を伺えればと考えております。以上で説明を終わります。</p> |
| 高橋会長 | <p>いろいろな状況を見ると、山崎小学校が一番に改修する必要性が高い、加えて、希少な土地があるというような状況から、緊急を要するというような提案だと思います。本件について、ご意見はありますでしょうか。</p> |
| 渡辺副会長 | <p>先ほど言いましたように、学校整備計画を作って、それに基づいてということだけではなく、やはり状況の変化があれば、計画ができる以前でも柔軟に対応すべきであろうと思います。山崎小学校の場合は、面積的に足りないという話もありますが、確か校舎の東側は土砂災害の危険区域になっていませんか。決して安全な場所に建っている校舎とは言えないと思うのですが、いかがでしょうか。</p> |
| 事務局 (鈴木次長) | <p>山崎小学校の一部は、土砂災害特別警戒区域、通称レッドゾーンに指定されており、山を背負っているという状態にあるということについては、お話しいただいたとおりです。</p> |
| 渡辺副会長 | <p>立地条件として、安全であるということは大事ではないでしょうか。山崎小学校は、築50年以上になっているが、これで例えば長寿命化ということで大規模改修して80年持たせるということや、校舎を建替えようとする場合には仮設校舎を建設したりしなければならぬということを考えると、そっくりそのまま移転する土地があるのであれば、私はその方がよいのかなという気がします。</p> |
| 高橋会長 | <p>長寿命化改修などをしても、仮設校舎について、いろいろと準備してグラウンドに建てたりしなければならぬわけですし、その数年間、やはり教育活動が滞るといったさまざまな問題がありますので、本当は全ての学校が移転新築できれば良いわけですが、鎌倉としての事情も考えれば、非常に有意義な提案を事務局からもしていただいていますし、後押しする渡辺副会長の言葉だったと思います。</p> |

| | |
|---------------|---|
| 黒木委員 | <p>私は腰越小学校出身なのですが、その頃山崎小学校の周りは、畑や田んぼが多く、腰越小学校と同じ規模のイメージだったのですが、児童数は、腰越小学校の2倍近くになっていて、ずいぶん増えたのだな、というのが率直な感想です。</p> <p>建替えは賛成で、新築はいいなと思うのですが、また使わなくなった時に、空き教室が増えていくという違う問題が出てきた時のためにも児童数の変化を調べているのだと思うのですが、やはり空き教室が増えた時に他の公共施設として使えるような、そういう変化ができるような作り方が必要のかなと思っています。</p> |
| 事務局 (鈴木次長) | <p>山崎小学校の周辺は、工場から住居系に土地利用の転換が行われ、共同住宅が建設されており、児童数が増えているということがあります。ご意見のような、将来的に児童数が減って学校に空き教室が増えた時ということについては、今後、公共施設を建設する際は、基本的にバリアフリーを前提として建設することになり、かつての学校のように、バリアフリー化されていないということではないので、そういう意味で転換は可能かなと思っています。また、山崎小学校は、グラウンドも狭い上に、高低差があるため、現在地での建て替えが難しいという状況があり、本来、計画的にやるべきであるが、このように特殊事情がある場合には、先行してというふうに、メリハリをつけさせていただきたい、というところで、本日提案させていただきました。</p> |
| 高橋会長 | <p>学区などの変更はないということですよ。</p> |
| 事務局 (鈴木次長) | <p>今のところ、学区の変更は考えていませんが、地形的に少し隔たりがあるものの隣の富士塚小学校の学区では、将来的に深沢の区画整理事業の関係で、大規模な共同住宅が建設されることになると、今は余裕がある富士塚小学校が向こう何年かのタイミングで児童数が増加して入りきらなくなるような状況になった時に、山崎小学校の規模では変更してもとても入りきらないということもあるので、そういうところも含めて、将来を見極めるための対応になるものと思っています。</p> |
| 高橋会長 | <p>小学校は、学区域が狭いですから、その中に建設可能な土地があるということは、非常に貴重な、何十年か、場合によっては何百年に一度のチャンスかも知れない、二度と出ないかも知れないと思うと、これを機会にとも思います。反対の意見がなければ、進めさせていただくように、ということよろしいですね。</p> <p>私は、先ほどの項目のところでも出たのですが、まず安心安全とか、教室が足りないという、プラスマイナスで言ったらマイナス側の問題もすごくあるし、環境に対応すべきとか、インクルーシブ教育に対応すべきだとか、新しい教育課題に対応すべき両面でやっていかなければいけないというふうに思っております。第三者的に言わせていただくと、鎌倉市の校</p> |

| | |
|---------------|---|
| | <p>舎は全体的に古いということです。先ほど、学校施設の見学をという話もありましたけど、私は、昨日も、別の地域で最新の校舎を見てきましたが、ものすごい差だな、と思うところもあります。鎌倉市の他の学校の改修のお手本になるような、各地域の人たちが鎌倉に良い学校が建ったね、先生も腕の振るいがいがある、そういう校舎になったら良いかなと思っています。大体予算が足りなくてそうはならないのですけれど。</p> <p>非常に難しいのですが、良い設計事務所の方、経験値の高い設計事務所の方に頼むと、検討すべきことが山のようにあるので、そこに今の学校建築のノウハウが蓄積されていて、ワークショップ形式で地域の皆さんと意見を収集しながら、コストはかかるのですけれど良い校舎を建てていこうとか、建築のプロセスについても研究が進んでいて、建物そのものが設計者から提案されて、あれが良いこれが悪いではなく、みんなで作っていこうみたいな機会にすることもできます。今回のこういう提案をきっかけに、そういったことも含めて、今後の改修計画の一つの道標にならないものかなと勝手に願っているところです。</p> |
| 渡辺副会長 | <p>資料2の裏面に、学校施設の老朽化状況という記載があります。</p> <p>私は第一小学校区の避難所の責任者なのですが、第一小学校はD評価になっていて、早急に対応が必要となっているが、これまで総合防災課といろいろとやりとりしている中で、学校の老朽化といった話は出てきていません。このような資料が出ると、避難所として適切なのか、ということになるのではないのでしょうか。総合防災課と学校施設課はよく協議して資料を出していかないと問題になると思います。D評価のところについて、早急に何らかの対応をしていくのなら別ですが、恐らく予算的にも難しいと思うので、少なくとも大規模災害が起きた場合は、公立の小中学校が避難所になるので、この評価を出すと、不安になると思ったので発言しておきます。</p> |
| 事務局 (鈴木次長) | <p>資料の出し方については、ご指摘のとおりと思います。ただし、この評価については、劣化度を踏まえて対応が必要であろうというところではあるのですが、耐震性が満たされていないとか、直ちに建物の危険性がというところではないのですが、このような書き方をすると、このまま使用して大丈夫かという不安はあるかと思います。防災的なところでこのような資料が出る時は説明を工夫しなければいけないと思いますので、ご指摘を踏まえて対応いたします。</p> |
| 高橋会長 | <p>過去の経緯を知らず、第三者的に言わせていただくと、もうちょっと早くから計画的にやっていたら、ということになるのですが、だからこそ、この協議会で検討をしていかなければ、ということだと思います。限られたリソースの中で適切に素早く検討していくということかな、と思ってお</p> |

| | |
|---------------------|--|
| | ります。お尻に火が付かないと進まないというのは、どんなことでもそうだと思いますので、頑張っていかなければというふうに思います。 |
| 事務局 (萩原係長) | 説明の前に、資料2の中で誤りがありましたので、報告いたします。表面の「1 校舎、屋内運動場、屋外運動場の面積等」の表のうち、中学校の表の下から3行目の大船中学校について、屋内運動場面積に黄色で着色しており、必要面積を満たしていないことになっていますが、着色が誤りで、その下の岩瀬中学校は着色しておりませんが、こちらが必要面積を満たしておらず、着色が必要であったということで、訂正の報告となります。 |
| 梨本委員 | 資料2で気になっていた点があるのですが、表面の表の備考欄に記載している「プール用地含む」については、屋外運動場面積に含まれているという理解でよろしいでしょうか。 |
| 事務局 (萩原係長) | お話しいただいたとおりで、表中の屋外運動場面積は、プール用地を含んだ面積となっています。 |
| 高橋会長 | よろしいでしょうか。 それでは、二つ目の議題の、緊急を要する件については、ぜひ進めていくということをお願いしたいと思います。 |
| 内容(3) 今後のスケジュールについて | |
| 高橋会長 | では、今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。 |
| 事務局 (萩原係長) | 内容の3、「今後のスケジュールについて」を説明します。 資料は、資料3「今後のスケジュールについて」になります。 次回の協議会は、令和5年9月頃を目途に第6回となります協議会を開催し、本日頂いたご意見などを基に、学校整備計画に記載する骨子をお示ししてご意見を頂きたいと考えております。 また、それを受けまして11月頃に第7回の協議会を開催予定で、そこで学校整備計画の素案をお示しして、素案に対するご意見を伺った上で、12月から1月にかけて、広く市民の皆様からご意見を頂くための意見公募、いわゆるパブリックコメントを実施する予定です。 その後、令和6年3月に第8回となります協議会を開催し、パブリックコメントを受けて変更等を行った学校整備計画をお示しして、最終的な計画を策定したいと考えております。 以上で説明を終わります。 |
| 高橋会長 | このスケジュールについて、ご質疑等ありますでしょうか。 なければ、以上で、本日の議題を終えたいと思いますが、事務局から何かありますか。 |
| 事務局 (萩原係長) | 次回以降の協議会につきまして、会場の都合などから9月と11月の協議会の候補日をこの場でお知らせしたいと思います。次回、第6回の協議会については9月19日もしくは22日のどちらか、時間はいずれも9時30分 |

| | |
|-----------------------|--|
| | <p>からを候補日と考えております。また、第7回の協議会は、11月21日もしくは29日のどちらか、時間はいずれも9時30分からを候補日と考えております。</p> |
| <p>事務局 (鈴木次長)</p> | <p>次回の協議会は9月を予定していますが、改めて詳細等、調整いたしまして、具体の日程や場所を決定しましたら、連絡いたします。</p> |
| <p>高橋会長</p> | <p>これもちまして、第5回鎌倉市学校整備計画検討協議会を終了いたします。ご協力を賜りまして大変ありがとうございました。</p> |